医業経営の現場から

file115　中国・四国地区

時代に合った承継のかたちを 早期の電子カルテ導入は不可欠

子が病院を継ぐのが当たり前の時代を過ぎて

1981年に片岡内科胃腸科医院として、片岡和博氏（現理事長）が開業。2019年に、勤務医として診療実績を積み重ねていた子息の片岡淳朗氏が承継のために戻ってきた。建物の老朽化もあり2021年にリニューアルをし、「かたおか内科」として現在は淳朗院長と理事長の2診体制で地域医療を担っている。

淳朗院長は医師になった当初は承継することは頭になかったが、勤務医として多忙な30代を過ごす中で40歳を前に継ぐことを決めた。ただ、福山市をはじめ淳朗院長の周囲では、承継せずに閉院している医院が過半数だという。

「どの業界でもそうだと思いますが、医療を学んだ時期も30～40年間ほど開きがあるので、親子といえども考え方、診療スタイルにどうしてもジェネレーションギャップが生まれて、すり合わせが大変になります。料理屋の屋号は同じでも急に味が変わるのと同じように、慣れていた診療方法が代替わりしていきなり変わると、患者さんも戸惑うでしょう」。

今までの医院の診療スタイルが自分の信念と合うのか、やりたい診療は患者さんが求めているものなのか。現にいるスタッフと考え方は合うのかなど、「僕はあまり深く考え過ぎない方ですが、承継を戸惑ったり悩んだりストレスを抱えてしまう方も多くいらっしゃるのが現実でしょう」と、承継の難しさを話す。

「“経営”に対するハードルも社会情勢から今と昔では異なると思います。患者さんを診れば診るほど良いという単純なものではなく、診療の質も担保しなくてはならず、その塩梅は難しいですね」と、自身の経験を踏まえてざっくばらんに語ってくれた。

先代の頑張りを実感 “何かあったら、かたおかに”

2診体制の当初は、患者を分けずに診療していたが、建替えを機に予約制を導入。患者の希望を聞きながらの担当制を取り入れ、現在は理事長が20～30年付き合いのある患者を担当し、院長は新患や発熱対応を中心にすみ分けができている。

「この地域は福山市の中心部と離れてはいませんが、芦田川という大きな川で遮断されていて、こちら側はクリニックが少なく、“歯が痛いから”と当院にいらっしゃる方もいます。“何かあったら、かたおかに”と地域の皆さまが思ってくれるようなクリニックであるのは、父の頑張りだと実感しています」。

その地域住民の期待に応え続けるためにも、淳朗院長は病診・診診連携に力を入れている。

医療法人社団片岡内科胃腸科医院 かたおか内科クリニック　概要

■所在地　広島県福山市山手町二丁目3番11号
■院　長　片岡　淳朗
■診療科　内科、消化器内科

「一朝一夕にはいきませんが、同じように承継した同年代の先生とは特に密につながっています」。

紹介・逆紹介だけではなく、日頃から気軽に愚痴や相談し合う“若手院長会”は当初3人だったが、8人ほどになっているという。

医者あるあるを克服 承継時に電カルを導入

診療環境を整えるために行ってきた中で、大きな変革だったのは1年目に行った電子カルテの導入。「医者あるあるですが、父の書いたカルテの文字が読めなくて。20～30年診ている患者のカルテは4、5冊分もあり、スタッフからは大反対されましたが、導入はマストでした」。

導入時は7社ほどから見積りを取り、できるだけ拒否反応のないようにタッチパネル式タイプを慎重に選んだ。導入後も不慣れなスタッフには、最初はテンキーの入力だけをやってもらうなど、少しずつスタッフの技量に合わせて業務の範囲を広げていった。今では「電子カルテなしは考えられないとスタッフは話しています」と笑みを浮かべる。

勤務医時代とは違った 難しさ、経験が面白い

今年の4月から承継して6年目に入った。「スタッフは『先生が帰ってきてすごく変わった』と言いますが、3年で変わると思っていた自分としたら、思うようには変えられなかったかなと。ただ、思うようにやらせてもらっていて、感謝しています」。

医療機器もちょうど替え時で使いやすいものを選定できた。その中で、値引き交渉なども行った。「電子カルテも2回、交渉で値段が下がりました。勤務医のときにはなかった面白い経験をさせてもらっています。18歳まで育った地元に戻ったことで、幼馴染やその親御さんを診る機会もあり、父と同じように20～30年来の関係性の中でというのも、勤務医のときとはまったく違う経験で、難しさもありますがいろいろとやりがいがある毎日です」と総括して振り返る。

最後に、後継者不足に悩むクリニックに向けて、「地域によっては開業が容易ではないこともあります。すでに基盤があるクリニックを承継できるのは大変ありがたいですが、それはそれとして、親子だからと考えずに承継させる側が承継する側に、メリットを示して承継しやすいようにすることも今の時代は大事だと思います」。

承継支援はニーズの高いコンサルタント業務。当事者ならではの貴重なアドバイスは、大いに参考になった。

スタッフの皆さんと。中央が理事長の片岡和博氏

院長　片岡　淳朗 氏

1977生まれ。2002年獨協医科大学卒業、同年岡山大学第1内科に入局。住友別子病院、四国がんセンター、岡山大学病院、亀田総合病院、福渡病院、津山中央病院、福山医療センターを経て2019年に片岡内科胃腸科医院を承継。
医学博士、日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、がん治療認定医、緩和ケア研修会修了、産業医。

天井高で明るく柔らかな雰囲気の受付・待合

診察室に続くアプローチ。デザイン照明や観葉植物が患者の緊張感を和らげる